

穴生学舎

夏季号 平成28年7月
第26号

発行：北九州市立年長者研修大学校
穴生学舎
北九州市八幡西区鉄竜一丁目5番1号
http://Kifakyu-nenchodai.com

編集：平成28年度新聞編集委員会



全コース宿泊研修特集！！

心と身体 の健康コース



日本水産(株)が創業100周年の記念事業の一環として開設した「ニッスイパイオニア館」を訪ねた。同館では船員の訓練用操船シミュレーターを操船したりニッスイが所有していた船舶やトロール網の模型を見学し、夜間研修では地域活動情報支援センター職員の講話、翌朝にはケアピクス指導員による体操の指導を受け、夜間懇親会も含め、楽しく過ごせた2日間であった。(山本 眞路)

文化伝承コース



小倉北区の「日本銀行北九州支店」を訪問。金属物チェック後に入館。日銀の仕事や、お札には沢山の偽造防止技術が使われている事等を学習。又、模造紙幣による一億円の重量体験もできた。夜は、懇親会で盛り上がり、研修を通してコースメンバーとの距離感が縮まり、楽しい研修だった。(安成 洋子)

写真入門コース



グリーンパークバラ園へ。小雨の中カメラと傘を持ち撮影開始。雨に濡れたバラも日頃と違う表情を見せる。植物園にも入り、動物や花、蝶を撮る。その後周望学舎へ。BQをやりたくなる程のロケーション。タベのつといの後、交流会へ。仲間との楽しい話に親睦が深まる。翌日は健康ゲームに笑いが洩れ、年代を超えての楽しい時間を過ごせた(土谷 俊美)

歴史に学ぶコース



芸道と名の付くものには、「茶道」「華道」「香道」とある。その一つである日頃馴染みのない「香道」を小倉城庭園で初体験をした。その名のとおり、香りを楽しむことであり、香りの違う数本の香木を温めて、その微妙な香りの違いを当てる高貴な遊びである。講師の優しさの溢れる厳しい指導の下、静寂な雰囲気の中で貴重な体験をした。(堀内 雅之)

健康づくりサポーターコース



眠らない物流拠点の太刀浦コンテナターミナルを見学しました。東南アジアからの輸入品が多く、国内8番の取扱量です。生活を支える物流に感謝しながら、夜はお楽しみの懇親会で大いに盛り上がりました。盛り上がり過ぎたのか、女性の寝室に忍び込む不審な影。たちどころに撃退され昇天。大ムカデさん安らかに。(安部 章)

実用書道コース



創立100周年記念に新設のTOTOミュージアムを訪れました。古い展示品から郷愁を最新の展示品からは究極の水回り機器のイメージを感じました。半世紀間生産されていた洋食器展示も素敵でした。心豊かな一日を終え開放感ある白い館を出たあと、また来てみたいと思いました。(安永 鈴子)

アジアを学ぶコース



「TOTO」小倉の便器製造工場を見学した。その製作工程は、「先ず、粘土を作り、それを成型、焼熱、塗装・・・等」であるが、粘土からの成型であるため、自動化は難しそうであった。しかし、若い女性職員の便器に関する堂々とした説明・案内には感激した。「TOTO」は今後も大きく飛躍するだろう。(藤田 勝弘)

国際情報コース



国際情報宿泊研修一日目はJICAの施設見学、昼食後に青年海外協力隊体験談「ドミニカ共和国の環境教育」の講話。その後、4班に分け、ワークショップ「とんぼ池」作り発表。各グループ、短時間で見事に纏めあげ、グループ員の結集の良さを見ることが出来た。その日の自由時間においても、和気あいあい楽しい研修であった。(砂田 猛)

絵画入門コース



入学してすぐの宿泊研修は充実の2日間でした。時間に追われていた日々を思い、今までにない有意義な時間の使い方。グリーンパークでのバラ回りをじっくり見つめ、花の持つ一番の美しさをどう表現したらと思う時間の流れ、一心に打ち込んでいる時の思いは、今までにない幸福な時間でした。この時をこれから大切にしていこうと思います。(久保 セツ子)

健康管理コース



地場の産業、リサイクル会社、石鹸会社の2社を見学した。健康者と障害者が同等に働く姿に拍手。周望学舎では健康貯金、ケアピクス等の授業、座談会では歌や踊り等の隠し芸の達人な人もいて、実に楽しく愉快的時間を過ごした。学舎の標語「生きがい・健康・ふれあい」に一番相応しいのは、宿泊研修だと思った。(中福島 篤)

地域ふれあいコース



北九州市立大学を訪問

最初に校内を見学した。14階建ての本館からは、自衛隊駐屯地や競馬場がよく見えた。次に、地域創生学群を見学、片岡准教授より、学群の説明があった。学生達は地域の人々とまち起こしの活動を行っている。その後、学生達と対話し、活動内容を聞いた。彼らは積極的に行動する好青年たちで、中々良い企画だと思った。(清水 実)

英会話コース



JICA九州の施設見学と「コーヒーカップの向こう側」というワークショップを行った。コーヒーの歴史や経済についての講義を受け、班ごとに生産者一家の立場でコーヒー取引を考え、発表した。各班クラスメイトが巧みな英語で回答が出来たとき「矢張り、英会話コースの生徒さんだ」と講師より言葉を賜ったのは、御世辞にしても嬉しかった。(末次 勝)

生活情報コース



学舎に初めて入学した1年生です。5月末に周望学舎に宿泊体験させて頂きました。午前中は「いのちのたび博物館」での見学と勾玉作り体験があり、久しぶりの工作で童心に戻った様な気持ちになりました。又、夜の懇親会では、皆さんの学舎体験談も聞くことが出来、とても参考になり楽しく過ごす事が出来ました。(武田 美由貴)

健康スポーツコース



少人数だが有意義だった宿泊研修
健康スポーツの参加者は14人で、内宿泊者は10人。しかも男だけ。開けてビックリ玉手箱の感があった。日明浄化センター見学後、待望の座談会が始まった。ただ黙々と飲む?と思った。ところがどっこい昔話等花咲かせ、人生劇場の展開だ。友よ、楽しかったぜ。周望学舎よ又来るぞ。(吉村 真三郎)

郷土のないたちコース



九州製紙(株)北九州工場を見学

一番圧倒されたのは、抄紙機というマンモスの様な形の機械で、大音響で作動していた。再生されたジャンボロールの巨大さにはビックリ。お土産のトイレットペーパーが小さく感じられた。「美しい自然を子供たちへ」という発信が、ふんわりやさしいトイレットペーパーから伝わってきた。(恵良 昌子)

題字を『穴生学舎』に統一します

これまで新聞編集委員会では、研修生中心の『かわら版』と市民の方々も視野に入れた『穴生学舎』の2本立てで、新聞を発行してまいりました。しかし昨今、もっと穴生学舎のことを知ってもらう必要がある、という声が研修生からは勿論、OBの方々からも聞かれるようになりました。それは近年、新入研修生の数が減少傾向にあることを反映したものであることは、疑う余地もありません。そこで、新聞編集委員会では方針を一変して、題字を『穴生学舎』に統一し、市民の皆様にも親しまれるような新聞にしよう決めました。趣旨をご理解の上、これまで同様、ご協力いただきますよう、お願い申し上げます。

新聞編集委員会一同

